

日本経済は3四半期ぶりのマイナス成長

ポイント① 7-9月期は3期ぶりマイナス成長

11月15日発表の2023年7-9月期の日本のGDP（国内総生産）統計によると、実質GDPは前期比▲0.5%（年率▲2.1%）と3四半期ぶりのマイナス成長となりました。需要項目別の前期比実質増減率を見ると、個人消費は▲0.1%、輸出が+0.5%、輸入が+1.0%でした。半導体不足が解消したことで自動車の輸出が拡大し、輸出が2四半期連続で増加しました。一方、輸入の増加率が輸出の増加率を上回ったことで、外需寄与度は▲0.1%と実質GDP成長率を押し下げたことに加え、内需も▲0.4%とマイナス寄与しました。

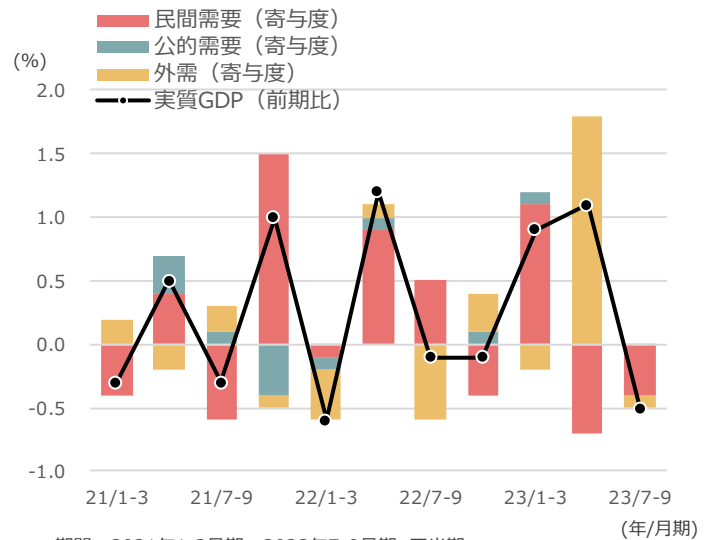
ポイント② GDPデフレーターは4期連続上昇

7-9月期のGDPデフレーターは、前年同期比+5.1%と4四半期連続で上昇しました。これまでの食品を中心とした原材料価格高騰が国内で価格転嫁された影響が波及しているとみられます。一方、名目雇用者報酬は7四半期ぶりに前期比でマイナスに転じており、今後物価高と賃金上昇の鈍化が継続すると日本のGDPの半分程度を占める個人消費の伸びが不安視されます。

ポイント③ 10-12月期以降は回復か

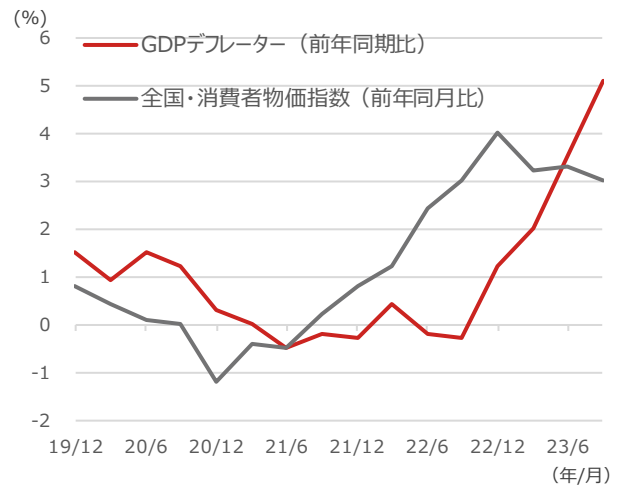
11月10日に日本政府は物価高対策、賃上げ対策を盛り込んだ約13兆円に上る今年度補正予算案を閣議決定したことに加え、来年6月には所得税、住民税の定額減税が実施される見込みです。また、自動車の輸出の好調が継続し、中国人訪日客を中心としたインバウンド消費がますます回復することでサービス輸出が増加すれば、今後の日本経済は回復するとみられます。

日本の実質GDP成長率と主要需要項目の寄与度



期間：2021年1-3月期～2023年7-9月期、四半期
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

日本のGDPデフレーターと全国・消費者物価指数の推移



期間：GDPデフレーター：2019年10-12月期～2023年7-9月期、四半期
全国・消費者物価指数：2019年12月～2023年9月、四半期
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

**重要
イベント**

- 11月16日 日本貿易収支 (10月)
- 11月24日 全国・消費者物価指数 (10月)
- 12月5日 東京・消費者物価指数 (11月)